

Title	地方自治体職員のモチベーションに関する調査研究：活力ある組織風土の構築に向けて
Sub Title	A motivation survey of local government officials- Aiming at a Vital Organizational Climate
Author	浦上, みちる(Urakami, Michiru) 高野, 研一(Takano, Kenichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度システムデザイン・マネジメント学 第2号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002009-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文

2009 年度

地方自治体職員の
モチベーションに関する調査研究
—活力ある組織風土の構築に向けて—

浦上 みちる
(学籍番号：80833035)

指導教員 教授 高野 研一

2010 年 3 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
システムデザイン・マネジメント専攻

論 文 要 旨

学籍番号	80833035	氏 名	浦上 みちる
論文題目： 地方自治体職員のモチベーションに関する調査研究 ー活力ある組織風土の構築に向けてー			
(内容の要旨) 本研究は、地方自治体職員のモチベーションおよびモチベーション形成・阻害要因を把握するための、一連の調査設計を行うものである。 本研究は3段階に大分される。第一段階は、調査設計である。設計の段階では、まず現代の地方自治体組織が置かれている法的・制度的・文化的環境を検証し、現在直面していると考えられる組織的課題についての考察を行っている。これを踏まえ、これまで主に欧米諸国や民間営利団体において研究がなされてきた既存のモチベーション理論を独自に分類し、80の調査項目を設計した。 第二段階は、実際に実行した調査の分析を行う段階である。まず因子分析・主成分分析・平均の差の検定(t検定)を行い、モチベーションに影響を及ぼす8つの共通因子を抽出し、サンプルグループ間における得点の比較検証を行った。 次に重回帰分析・共分散構造分析を用い、各因子がモチベーションに及ぼす影響の大きさや、因子間の因果関係を分析した。その結果、一部のグループを除き、自己効力感(自分自身に対する有能感や自信)がモチベーションに最も大きな影響を及ぼしていることが明らかになった。一方で給与や福利厚生など、処遇についてはモチベーションに影響を与えているとは言えないことが示された。 第三段階は、分析結果や、それに対する地方自治体首長や担当者のフィードバックをもとに、調査に対する評価を行う段階である。首長や人事担当者との議論の中で得られた意見や感想、及びアンケート回答者から得られた自由記述の内容をもとに、調査方式や対象者の抽出法、質問冊子等についての提案を行っている。			

SUMMARY OF MASTER'S DISSERTATION

Student Identification Number	80833035	Name	Urakami Michiru
Title A Motivation Survey of Local Government Officials - Aiming at a Vital Organizational Climate -			
Abstract In this paper, motivation survey in local governments is designed in order to analyze motivating factors and correlations between each of them. Firstly, architecture and each questionnaires of motivation survey are designed. In advance of actual design process, environmental changes which have vital effect on local governments such as legal revisions and cultural backgrounds are mentioned and analyzed. Based on these understandings, previous motivation theories are originally categorized to provide 80 questionnaires in total. Secondary, motivation survey in local governments is actually conducted and scores are analyzed. T test, factor analyses, principal component analysis, multiple linear regression analysis and analysis of covariance are used. As a result of those analyses, Self-efficacy was clarified as the most important factor on motivation to work. Thirdly, motivation survey is verified by the result of analysis and feedbacks from local governments' staffs.			